



◇キラクLNGを今後2年で大きく前進へ

=TPE社・前澤社長、「競争力ある価格を提供」

ガス

2026年1月21日 15時46分

アラスカでLNG生産を計画するキラクLNG社（Qilak LNG）が今後2年間でプロジェクトを大きく前進させる方針だ。基本設計（FEED）業務やLNGマーケティングなどを進める。ヘンリーハブのような市場価格に左右されない原料ガスコストやロシアで実績がある重量構造物（GBS）液化プラント工法や砕氷型LNG船などを活用してコスト低減を図り、2028年の最終投資決定（FID）を目指していく。主に日本向けマーケティングを担当する日本トランスパシフィック・エネルギー社（TPE）の前澤英治社長（キラクLNG日本代表兼務）は「競争力のある価格を提供できる」と実現に自信を示した。

計画ではアラスカ北極・ノーススロープ地区にあるポイントトムソン鉱区の天然ガスを原料に第1期開発として年間約400万トンのLNGを生産する。液化基地は近海に設置するGBSの上に建設し、約10kmの海底パイプラインで同鉱区と接続する。LNGは厚さ2.1mの海氷域を航行可能な砕氷型LNG船（Arc-7）で通年にわたり同地区から直接出荷する。

すでにキラクLNG社はポイントトムソン鉱区の開発を手掛ける米エクソンモービル社と原料ガスの購入で基本合意（HOA）した。TPE社でも日本での需要獲得に向け複数の需要家と秘密保持契約を結び話し合いを継続している。

アラスカでは年産200万トンのLNG生産プロジェクト「アラスカLNG（AKLNG）」の開発が進行中だが、米バーガム内務長官は外国投資家等に対し公の場でキラクLNGを「アラスカで2番目のLNGプロジェクトになり得る」と紹介した。

プルドーベイ鉱区などを利用するAKLNGとは原料ガス鉱区が異なり、また開発方式も違う。前澤代表は「AKLNGとは競合しない。ノーススロープ地区には十分な原料ガスがあり、独立したプロジェクトとして米国、アラスカ州の支持を得ながら開発を進めている」と説明した。

ポイントトムソン鉱区の周辺にガスの需要は無く、また本土48州とも切り離されているためヘンリーハブ市場に左右されない柔軟な価格設定が可能になる。開発費用は50億ドル（約7000億円）を想定しており、1トン当たりの生産コストは1250ドルと長距離パイプラインが必要なAKLNGの生産コスト（2200ドル）を大きく下回る。

これまでに実施したコンセプトスタディでは、固定可能な原料ガスコストや米国ガルフコースト沿岸よりも割安なフレートをベースに日本到着価格は6ドル/mmbtuに収まると試算した。「さらに詳細なFSで確度を高め、需要家に正式なプロポーザルを出すことを予定している（前澤代表）」という。

GBSを用いた液化基地や砕氷型LNG船についてもロシア北極圏「ヤマルLNG」や「アークティックLNG2」で実績があり、これら既存技術（proven technology）を活用する点も実現へのポイントに挙げた。砕氷型LNG船は4隻程度を長期傭船する考えで、TPE社は日本の船会社とも協議を進めている。アラスカからのLNG輸送を通じ地政学的にも意義のある北極海航路の実現を目指していく。

LNG契約については砕氷型LNG船での着残渡し（DES）条件で、「10年～15年の長期契約が望ましい。価格方式は原油連動価格、固定方式も含め需要家の希望を踏まえた形で柔軟に交渉していきたい（前澤代表）」とした。TPE社は日本の受入基地を供給地としてだけでなくLNGの積み替え拠点として活用することも提案している。

砕氷型LNG船は通常のLNG輸送船よりも燃費効率が悪く、ヤマルLNGでは欧州等で通常船へ積み替えたのち最終需要地に供給している。キラクLNGでは日本が最も近い積み替え候補地にあたり、今後の需要増加が見込まれるアジア市場にも近い。積み替えサービスや第三者への販売等で収益を得る機会も提供していく。

生産開始は2033年頃を予定している。ちょうど足元で進展する米国、カタールのLNGプロジェクトからの新規供給の波が一段落したタイミングにあたる。カナダ・マッケンジーデルタなど近隣にも十分な原料ガスを確認しており、第2期開発として生産量を年間800万トンに倍増させることも検討していく。

最終投資決定に向け詳細なFSやFEEDを進めるにあたり北極でのLNGプロジェクト実施経験のあるパートナーを募ることで遂行体制も整備する「進展を踏まえ原料ガス供給で合意したエクソン社にも参画を働きかけていく（前澤代表）」方針だ。

●キラクLNGプロジェクトの概要

事業参加者	キラクLNG社（Qilak LNG Inc：本社アラスカ州アンカレッジ）
開発鉱区	ノーススロープ地区ポイントトムソン鉱区（ExxonMobil 68%：Hilcorp 32%） 確認埋蔵量 天然ガス6Tcf以上、コンデンセート2億バレル （エクソン社から560MMCF/dの購入で基本合意済み）
液化基地	近海GBS（重量構造物の上に液化施設やLNGタンク等を設置） 原料ガス鉱区～GBS間の約10kmを海底パイプラインで接続
LNG生産量	年間400万トン（第1期開発）
総事業費	約50億ドル（約7000億円）
詳細FS/FEED/許認可	2026年～2027年
最終投資決定	2028年度目標
建設/生産開始	建設：2029年～2032年 生産開始：2033年目標